



## 甲府空襲とは

昭和 20 年 7 月 6 日午後 11 時 30 分、米軍爆撃機が来襲。市北部の上空から姿を現した B-29 爆撃機 139 機は約 970 トンの焼夷弾を投下。市内は火の海となった。猛火は市街地の約 74% を焼き尽くし、市民 1,127 人が死亡、86,913 人が家を失って焼け出された(『写真集 甲府物語ー市制 100 周年記念ー』より抜粋)。

# とびだせ！市民レポーター！

## 繋いでいく平和への想い ～甲府空襲体験談を聞いて～

今から 81 年前の 7 月 6 日、甲府空襲がありました。実際に戦争をご経験され、当時を知る方は少なくなっていますが、そういった方々から平和への想いを受け取り、繋いでいくのは私たちです。甲府空襲の体験談を語り継がれる 3 人の方のお話から、皆さんも「平和」について考えてみませんか。



### 茶碗一杯の幸せ

甲府で生まれ育った神戸さん。甲府空襲当時は 11 歳、小学 5 年生でした。富士山の方向からこちらへ向かってくる B-29、壊滅した甲府の街で見てしまったもの、近所に落ちていた不発弾の形状まで、今でも鮮明に覚えているそうです。神戸さんが特に印象的だったと話して下さったのは、焼夷弾の落ちる音。耳を塞いでも、電車が迫ってくるような轟音が響き、正気ではいられない方もいたそうです。時代は変わっても今なお、戦争の忘れられない記憶を持ちながら、現在を生きる神戸さん。「茶碗にご飯が入っていれば、何とかそれで生きていける」それは今も昔も変わらないシンプルな事実です。平和な毎日に感謝を忘れず、この記憶を繋いでいきたいと思いました。



▲神戸昌夫さん (こうべまさお)



### 甲府空襲 今思うこと

「晶子、空襲だよ」ただならぬ雰囲気のお母さまの声で目を覚ました桂田さん。当時 12 歳でした。夏なのにお母さまは半纏を着て、相生町から西へ逃げました。家から出た瞬間、パッと明るくなった衝撃を今でも覚えているそうです。あとから知ったことですが、これは塚原町辺りへ落ちた照明弾だったそうです。ご両親は、空襲警報時はどう動くか決めており、使わない畳などを事前に疎開先へ送るなど、いざという時の準備をして、それを見ていた桂田さんも幼いながら長女としての自覚を強く持って行動していました。戦時中、特に印象に残っていることは、家族で囲んだ食卓だそうです。警戒警報中は明かりを漏らしてはいけないので、電気の傘にスカートのような布を被せます。その下で卓を囲み、家族で身を寄せ合い食事をします。「今思えば質素な食事だったと思いますが、この時間がとても大切で楽しい時間でした。」



▲桂田晶子さん (かづらだせいこ)

桂田さんのお話で、当たり前毎日の日々の何気ない時間の大切さを改めて実感しました。

「山梨平和ミュージアム」についてのブログもこちらから

市民レポーターブログ  
もご覧ください▶

【市ホームページ】

市民レポーターブログ

検索



### 亡き母から娘へ 語り継がれる体験談



▲渡辺理恵子さん (わたなべりえこ)

渡辺さんのお母さま(故)小林美智子さんは当時 16 歳。空襲の夜、妹弟を連れて愛宕山へ逃げた際に妹さんとはぐれてしまいます。やっとの思いで戦火の中を逃れ、病院で再会した妹さんは、片足を切断しなければならぬ状況でした。「お姉ちゃんは花嫁さんになれるのに、私はなれない」と苦しむ妹の姿。

廊下へ響く足を切断するノコギリの音。「ミシンを買ってあげるからね」と家族で励ましながら、回復を祈りましたが、二度と妹さんが元気になることはありませんでした。

お母さまはとても明るい方で、妹さんとの思い出は笑い話が多かったそうです。しかし近年の震災や世界情勢の悲しい光景がご自身の過去と重なり、未来に声を届けるため、子どもたちへ語り部としての活動を始められました。

渡辺さんはお母さまに直接、意志を継いでほしいと言われたわけではありません。令和 6 年に 95 歳で亡くなられた際に「いつまでも伝え続けたい」という手紙を見つけ、最後の親孝行として、その想いを私たちに繋いでくださいました。



▲お母さまが子どもたちに伝えるため推敲を重ねた原稿

### 今月の担当レポーター 百瀬 葉月

実際に甲府空襲を体験された方やそのご家族から直接お話をお伺いできたことは、私にとって貴重な機会となりました。私たちは過去から学び、未来を作ることができます。まずは過去に何があったのか、自分と同じような立場の方々はどうしていたのかを知り、これからに生かしていくことが大切だと感じました。



☎市民部総務課... ☎055 (237) 5294

### 平和祈念黙とうにご協力を



7月6日(月)正午  
甲府空襲の日

7月4日(土)午前9時  
～13日(月)午後3時  
本庁舎 1階展示スペース